

第162回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日 時 令和2年10月20日(火) 午後3時～午後4時半
場 所 602議室
出席者 6名
 峯岸正雄、芝勝治、高橋勝緒、高橋絹世、友國洋、松田廣行
傍聴者 なし
事務局 環境課 課長 亀井、主幹 加藤、塩野

1 開会

- 峯岸会長から開会のあいさつ

2 議題

(1) 第2次環境基本計画実行計画改訂版実施状況評価について

○ 第2次環境計画基本計画実行計画【改訂版】令和元年度環境施策実施状況に対する評価についてのたたき台について

※ 会長の評価案と会議後に友国会員から寄せられた修正案について議論。

意見等

○ 「1. 環境施策実施状況(個別事業)の自己評価と当会議の評価」について

- 会長案の1ページの自己評価の結果(項目数)について、一覧の「項目」という言葉は除いて良いと思う。
- タイトルが、令和元年度環境施策実施状況に対する「評価」となっているが、「意見」が適切ではないか。そもそも環境づくり市民会議の役割分担としては、意見を言うのか評価するのかどちらなのか。
→(事務局)第2次計画書で市民会議が「評価」するとなっている。タイトルについても原案のとおりで良いと思われる。

○ 「2. 総合評価」について

- (会長)総合評価について友国会員案では3年連続概ね適切という評価になったのだが、何か付け足すことはあるか?
→トラスト制度の進捗は、ホームページに制度の設立に向けた取り組みが掲載された段階。まだ具体的な成果が出ている状態ではない。
→トラストについて前進した。しかし、友国会員案の「高く評価」というのは「実際に実現されることを期待します」だと思う。実際には動いてない。
→10月1日の組織改正で公園みどり課が新設された。今後の取り組みを期待する。
→概ね適切というのはなにも95点とかではなく80点。こうだったら何点とかウエイトの事ではない。個々の事業には予算付けの優先順位の問題が絡むのだから、

言いすぎでは進まない。取り組めた内容をある程度認めていく姿勢が必要ではないか。それから、市民会議の役目の中に提言というのがある。環境問題で重要なのが緑と地球温暖化対策だ。これはお金の問題ではなく、やるかやらないかである。そこは強く言いたい。それが提言。はっきりメリハリつけて言わないと、何を言っているのだということになる。

総合評価を概ね適切と書いたが、それ以外他に表現があるのか。概ねというのは、決してよいというわけではない。評価といわれると、概ねというのが重要で、達成できてないからそうせざるを得ないということである。

→それでかなり強く主張してる。一応肯定はしているけどかなり強く否定しているというのは適切な表現だと思う。

- 「2. 総合評価」と「3. 第3次環境基本計画に向けて（提言）」はどちらが重要な話として考えればいいのか。友国会員案は3番の方が大きな結論になっていて、重要性が強調されているように見える。

この文書全体が実行計画の評価である。評価から宣言の内容あるいは宣言することの必然性が見えるとよい。こうした結果これが大事だという道筋がはっきりすればすっきりすると思う。内容的には賛成だがその点で全体として違和感がある。

評価から導かれる話という筋道があるのか。それとも独立して市民会議として宣言をすべきだという主張を入れた方がよいのか、どういったニュアンスか。

総合評価を検討する上でこの会では次のようなことを提案するといった文言があれば筋が通ると思う。

「2. 総合評価」の最初の4行が非常に重要。だから最後に宣言がどう入るのかと。はっきりそういう状況だからこそ宣言して欲しいというような意味合いではないかと思う。この提言が評価とどう結びつくのかが一言あるとイメージが湧く。

- 「3. 第3次環境基本計画に向けて（提言）」について

- 独立した第3次環境基本計画に向けての話なのか、それとも評価の中で進めてきた提言なのか。そこをはっきりするとよいと思う。要するにPDCAで、評価というのはCのこと。チェックしてアクションをしていくことが必要だ。

→それならば最初にそのPDCAにおいてこうですと言えばよい。この評価の中でどういう趣旨の提言なのか。位置づけが分からない。「2. 総合評価」が非常に重要な役割を果たしている。それを基にして提言が出てくるはずだと思う。

→（会長）今回今までに無いことを書いたのは、総合振興計画の会議に参加していて、そこでPDCAをちゃんと回さないと、と言っている。整合性を取ったほうがよいと思っている。

- 評価的にはプラス思考でよいと思うが、実際、実現しているかというところほとんどしていないというギャップを感じる。友国会員案の提言の中にある3. (3)「①『緑と湧き水のまち』宣言」の提言は大事だと思うが、評価と続きで見るともっとやらないと、このような提言を強くしていかないと、この都市化するまちの中で実現不可能なことが多い。

- 市民は緑のある和光市に魅力があると思っている。そこをよく理解してもらい、市民にも理解してもらって、あとはもちろん市長に理解してもらわなければいけない。市として大事なのだということを内外に宣言してもらいたい。あと、ゼロカーボンシティというのは2050年でかなり先だが、そんなところまで知らないよということではなくて、本気で取り組まないとこれは環境に非常に重要な事業である。緑の街を実現することによって、それに応じた対策を講じないといけないだろう。
- 3ページ目3.「(4)組織の再編、業務のデジタル化を進める」の最後の文言は不要だと思う。
- (会長) (4)については第5次総合振興計画基本構想の策定で議論されており、そちらに含めるべき事例だと思うので、あえて環境部門でそこまで書く必要はないかと思う。

○まとめ

- 友国会員案をベースにする。
- 修正するのは3の「そこで」の後に「上記の評価に鑑みて」を追加する。あとは(4)を削除。1ページ目の項目の文字をとる。
- (3)の①と②については今回宣言をする。
- 友国会員案では峯岸会長案にあるプラスチックの問題は入っていないがどうするか。→今回はプラスチック問題を持ち込まなくてもよいと思う。ただ、今後環境問題としての重要課題になっていくという認識を持っている。

(2) 第3次和光市環境基本計画策定の進捗状況について

○令和2年度第2回環境審議会の内容について事務局から説明。骨子案の提示。

- SDGsの日本語訳は持続可能な開発目標なのか。英語でも書いておくべきだと思う。→(事務局)第1回の環境審議会の方では資料に記載しているが、紙面の都合上入れられなかったため今回は略・日本語訳という形で入れた、持続可能な開発目標という用語については第5次総合振興計画でもその名称で使用しているため一般的な呼称と認識している。
- 基本計画の骨子案で、地球温暖化実行計画について目次を見ると第5章の温室効果ガス削減だけになっている。中段に記載のあるゴミ処理等の問題はどこに入るのか。→(事務局)地球温暖化対策の施策については目次の5.4の所で記載する。第2次計画の定義だと望ましい姿2で方針1地球温暖化対策の推進という項目がある。方針2として循環型社会の構成という項目が掲載されている。現状では目次構成上は第4章「望ましい姿2」という記載に留まっている。循環型社会の形成というところではこれからどちらに落とし込んだほうがより効果的なのかを検討している。
- 4.1に第5章が入っているという理解か。→資料の4.1望ましい姿1というのは現状の2次計画の部分での比較ということでとらえていただきたい。4.1の望ましい姿1には従来ある自然環境の保全等が今後強く入ってくる。望ましい姿2で第2次計画では地球温暖化対策の推進を入れていた。今回は地球温暖化対策の実行計画があるので、これを一緒にするという流

れの中で地球温暖化対策だけ独立するようなイメージでとらえてもらいたい。

- 温暖化の問題とごみの問題はもちろん関係はしているが、ローカルに取り組むとすると、ごみの適正問題の方が重要性が高い。地球温暖化の方は地球規模のCO₂の排出の問題はなかなか市では解決のしようがないので市の活動としてはそういう点が重視される可能性が出てくると思っている。

(3) その他

○会員の退会と名簿の更新について

○次回の会議日程

3 閉会